

# 「この先生に ベストを尽くしてもらえて うちの子は幸せだった」 と思ってもらえる獣医師であり続けたい



フェアリーペットクリニック  
Fairy Pet Clinic

「一人っ子の僕にとって、  
犬たちは兄弟のような存在  
でした」と語る寺田啓人獣  
医師は、父親の仕事の関係  
で100匹もの犬たちに囲  
まれて育った。小さな動物  
への思いも人一倍強い。  
人相手の医者と違い、獣  
医師は、しゃべることので  
きない子が相手です。その  
診断には細心の注意を払い  
つつ、誤診の可能性を忘れ  
ないようにしています」  
飼い主さんの話も全てを  
鵜呑みにはできないという。  
「食欲はあり普通に食べて  
いる、という話しの後にレ  
ントゲンをとったら胃の中  
は空だったとか、ヘンなも  
のは口にしていない、と言  
うのですが、調べたら異物  
を飲み込んでいたりといっ



玄関横の壁に愛犬の写真が飾られている

たことが、ままあるのです」  
寺田さんが白金高輪に開  
業したのは数年前。「慣れ  
ない土地で、最初は言葉使  
い一つにも神経をすり減ら  
していました。あるとき、  
自分は動物たちに育てられ、  
その子たちに恩返しをする  
ために獣医師になったんだ  
という原点に立ち返り、素  
直な自分でやろうと肩の力  
を抜いたら、すつと溶け込  
めるようになったのです」

だから犬との生活のアド  
バイスなども率直に行う。  
「依存心の強い小型犬を過  
保護にせずると、常に人  
と一緒になければ精神的に  
安定できない子になってし  
まう。可愛いがるだけでな  
く、節度のある育て方を」  
心のバランスのケアのた  
めには、植物由来のレメデ  
イーも活用している。そん  
な寺田さんが、一番胸打た  
れるのが、最善を尽くした  
けれども助けられなかった  
時に飼い主さんから「あり  
がとうございました」と言  
われる瞬間。「これだけ手  
を尽くされて、この子は幸  
せだったんだ」と飼い主さ  
んに思ってもらえる獣医師  
でありたいと、静かに語っ  
た。